

3-9

生きるということ

胃ろうを造設する事はその人の人生にとって何なのか

色々な思いを受けより良いケアを行なっていく大切さ

特別養護老人ホーム ひらお苑

発表者：相談員 宿利 秀子	共同研究者：担当職員（看護、介護）一同
所在地：東京都稲城市平尾2-49-20	
TEL：042-331-5666	
FAX：042-331-6006	

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人平尾会が母体であるひらお苑は平成9年4月に100床の特養を開 設、その後ティサービス、訪問介護、ショートステイ、居宅介護支援、平成15年 には特養を70床増設、グループホーム、地域包括支援センター、生活支援ハウス 等が開設された高齢者総合福祉施設です。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉 ○経口摂取維持への取り組み ○胃ろうを造設すること ○ターミナルケアとは ○各専門職の立場からの思いと連携 ○家族、本人の思い 〈具体的な取り組み〉 ○胃ろう対象者の選出 本人の意思確認が出来ない利用者のケース 本人の意思確認が出来ない利用者のケース 胃ろうでターミナルを迎えた利用者のケース ○入苑から現在までの生活状況の紹介 ○経口摂取への取り組み 定期的内視鏡検査への取り組みと結果報告を受けなが らの取り組み、経過観察記録 誤嚥等の健康管理記録 ○医師より胃ろう造設を提言された時の本人、家族の思 い ○胃ろう者への施設としての考え、対応について ○胃ろう造設後の生活状況記録 ○胃ろうでのターミナルとは ○造設後の本人、家族の思い ○家族、本人、介護、看護、栄養課、相談員の胃ろうに 対する思い	〈活動の成果と評価〉 ○本人、家族、介護者、看護者、相談員の胃ろうに対し ての思いが聴け統一した思いでケアにあたる。 ○経口摂取維持への安全な取り組み ○それぞれの立場での果たす役割の再認識、再確認 ○種々のケースを紐解くことで家族、本人の選択方法へ の助言に活用できる。 ○「生きるとはどのようなことか」を再認識した。 ○現在の医療について考えた。 ○生きること、生活することの種々の楽しみ方の理解が できた。 ○家族との信頼関係の構築 ○医療機関との連携の重要性 〈今後の課題〉 ○常に「真に生きるとは」の問いを追求、継続し、個別 ケアに取り組む。 ○ケアする側の思いの統一を図る。
--	--

【メモ欄】